

「まったく…リヴィさんの  
衣装でエッチしたいなんて…  
服汚しちゃったらどうするのよ…」

「そんなこと言いつつもちゃんと  
借りてきているあたり  
セウは流石だなあ」





「そ…それは…  
あなたがあんまり  
しつこく頼み込んでくるから……」

「うんうん、すごく似合ってるよセラ。  
それにとてもエッチだ！」



「それって褒めてるつもり…？」

「もちろん！」

「なんか複雑ね…」



「それよりセラ…そろそろ……」

「な、なんでもうそんなに大きくしてるのよ！」

「セラのその格好見たらいやでも興奮するって！」

「……」



「セラ…はあはあ……」

「わ、わかったから  
落ち着きなさいよ……まご……」



「いい？服は汚しちゃダメよ……？」  
「うんうん！気をつける！」  
「本当に大丈夫かしら……！」



「セラの下着…シミがついてる…  
「セラも興奮してるの?」  
「なっ…そういうことは  
言わなくていいからっ…!」



「もう……す、するなら  
早くしなさいよ……」

「うん、もう限界……  
それじゃあお言葉に甘えて……」





「あっ……♡」

「はあはあ……セラのおまんこ……  
すごくエッチだ……」

「……」  
「それじゃあ入れるね……」



「んっ…くっ…あっ…♡」

「ああっ…セラのおまんこの中…  
ぬるぬるしてあったかい…」



「はぁっ…セラ、セラ…！」

「あっ…♡ちよ、もうすこし…  
ゆっくり…んっ…♡」

「ごめんっ…！気持ちよすぎて…  
腰、止まないっ…はぁっ…！」

「そんなっ…あぁっ…♡」



「はぁっ…セラ、そろそろイキそう…  
ぞ、外に出した方がいい…?」  
「だ、ダメよ…!服にかかったら  
どうするのよ…はぁっ…♡」  
「で、でも…!」



「……わよ」

「え……？」

「な、中に出して……いいからっ……  
ふ、服は汚しちゃっ……ダメよ……♡」



「せーっ……」

「あっ……♡  
ぞ、そんな……激しっ……  
ああっ……♡♡♡」



「……カレ……」

「……♡……♡……♡……」

「……♡……♡……♡……」



「はあっ…射精、止まんない…  
ああ……」  
「ん……♡」





「はあ…はあ…」

「すごく、気持ちよかったよ…」

「セーラ…」

「…それは、良かったわね……」

「セーラは…」

「気持ちよくなかった…?」

「わ、私は……」



「わ、私も……  
気持ち、良かった……わ……」

「マリ……」



「って、なんかまた中で  
大きくなってない…!？」

「セウの素直な感想を聞いたら  
まだ興奮してきちゃった…!」



「……」  
「おえせら、まう一回…  
してもいい？」



「断ったってどうせ聞かないんでしょ……？」

「う、それは……」

「それに中でまだ硬いままだし……」



「まあ…今日はオフだし、  
とことん付き合ってあげるわ…」  
「セラ…！」



FANBOXに差分プリマス!

















































